第36回 横須賀市社会福祉審議会　高齢福祉専門分科会議事録

１．開催日時　　令和８年10月８日（木）午後２時から３時30分まで

２．開催場所　　横須賀市役所　消防局庁舎３階　消防第２・第３会議室

３．出 席 者

【委　員】

福馬分科会会長、荒木委員、河西委員、鈴木委員、豊島委員、原委員、半澤委員、松尾委員

（欠席）沼田委員、星名委員

【事務局】

介護保険課　茂木課長、本松主査、石川係長、安藤係長、川口係長、山崎係長、青井主任、荒木

福祉総務課　福本課長、若山課長補佐

地域福祉課　中島課長、西山課長補佐、竹内主査

健康増進課　竹内課長、田杭主査、田木主任

【傍聴者】１名

４．議　事

（１）前回会議等関連事項

①議事録について

議事（１）①について、修正意見がなかったため、前回議事録を確定した。

（２）横須賀市高齢者保健福祉計画（第９期介護保険事業計画を含む）の実績（第９期２年目）と評価について

議事（２）について、資料１に基づいて事務局から説明を行った。

委　員：各事業の個別評価でA評価が多いことは、職員の皆様が日々の業務に丁寧に取り組まれてきた成果であると認識している。
計画全体の評価はどうか。

事務局：計画で毎年度進捗を図っており、常に計画を意識した事業の取組みを行っている中で、真摯に業務に向き合い、市民の声を聞いて事業展開していると考えている。

委　員：59ページ、評価は「令和７年度も」となっているが、令和８年度の誤りではないか。「今後」に変更してはどうか。

68、69ページは「令和８年度以降は」と書いてあるが、こちらも「今後」と表記を統一したほうが良いのではないか。

事務局：ご指摘のとおり。修正し、評価を統一したものを公表する。

委　員：18ページの多様な主体について、具体的に書いた方がいいのではないか。また、29ページの認知症サポーター養成講座についてＡ評価となっているが、サポーター養成した人たちがどのような活動をしているのか。

事務局：具体的な記載を検討する。なお、令和７年度の進捗管理資料としては今回のもので完成だが、来年、令和８年度（計画３年目）の評価の際に記載を検討することとしたい。

（３）令和８年度保険者機能強化推進交付金・介護保険保険者努力支援交付金（市町村分）評価指標に係る評価結果について

議事（３）について、事務局から説明を行った。

質疑はなかった。

（４）横須賀市高齢者保健福祉計画（第10期介護保険事業計画及び認知症施策推進計画を含む）案について

①第４章　施策の展開　方針５　介護保険制度の持続可能で安定的な運営
14　介護保険事業の見込み　（２）介護保険サービス量の推計

議事（４）①について、資料３に基づいて事務局から説明を行った。

委　員：訪問介護の人数は増えず、回数が増えるのはなぜかと思っていたが、９期の実績が、人数は横ばいで、１人あたりの回数が増えているため、そのような内容にしたと説明を受け、納得した。

②第１章～第４章とりまとめ

議事（４）②について、資料４－１～４－６に基づいて事務局から説明を行った。

委　員：資料４－１の８ページについて、世帯状況は国民生活基礎調査にもデータがあると思うが、なぜ国勢調査を使用しているのか。

事務局：介護保険事業計画策定のために国が用意している、地域包括ケア「見える化」システムで、世帯状況のデータが国勢調査データを基礎としているため。また、人口とデータ元を合わせるため。

委　員：資料４－１　44ページ３段落目にある「一人当たりの負担」とは、介護保険料負担のことか。

事務局：お見込のとおりである。

委　員：資料４－６　31ページ　開設後年数を入れてもらったが、開設後、何年くらいからいろいろ考えていかなければならないなどの目安はあるのか。

事務局：国や県の補助金について、市を通じて交付を行っているが、現在の交付要綱に定める補助要件として、一定年数を経過して使用に耐えられなくなった施設及びその付帯設備の改修等が補助対象となっている。また、一定年数と言われるのはおおむね10年と規定されている。

５．その他

以上で議事がすべて終了したことを分科会会長が宣言した。

事務局から、閉会の挨拶をし、第36回高齢福祉専門分科会は閉会した。

※この議事録は委員等の要点筆記である。